

# 2023年度書朋毛筆部昇段試験を終えて

公益社団法人滋賀県書道協会 理事長 神田 浩

今年も多くの方に挑戦頂きありがとうございます。昨年に続いて受験者が増えたことを喜んでます。今後も学書を継続してください。結果は別表の通りです。以下、各段審査担当の審査評を掲載します。今後の学書の参考にしてください。

## 初段 三原 博

若い方々を含めて皆さんの生き生きとした線質と迫力に驚きました。この調子でドンドン作品づくりに挑戦してください。期待しています。ただ、創作で縮んで表現していたり、臨書で塗った様な弱い線で書かれていた方もあり残念でなりません。今後とも自信を持って積極的に『書朋』へご出品ください。お待ちしております。

## 2段 藤居 孝弘

全般的に、この昇段試験に向けて懸命に書かれた力作ぞろいでした。合否の分かれ目としては、この段から必須課題となる実用書です。一字一字は非常に丁寧にしっかりと書かれているのですが、全体として大きさがバラバラだったり、行の中心が通っていないかったりして、残念なものが見受けられました。また線が細く、自信なげに見えるものもあります。「賞状」という目的から考えて堂々とした立派な感じのものをイメージされるとよいかと思います。また、行書も臨書学習の成果がよく見える課題です。楷書と同じ筆遣いやリズムで、少し線をつなげてみた、という感じでは、太宗の温泉銘の持つ雰囲気とはずいぶん異なるものになってしまいます。まずは原本の形や筆の動きを忠実に学ばれることをお勧めします。半切 $\frac{1}{2}$ に楷書や行書を三字書くのは、どうしても窮屈で、それぞれの字の形や線質の変化を十分に見せられないように感じました。この段階では、「大きく習う」ことを特に意識されるとよいと思います。

## 3段 古迫 司水

文字は線で組み立てられています。筆先を効かせた、キレのある線質で書くことで、生き生きとした文字になります。そんな筆づかいができていている人は、4つの課題のどれも見応えのあるものになっていいると感じました。いくら形よく書いても、線が弱いと、ただ文字が並んでいるだけでなかなか「書」にはなりません。仮名や実用書でも、筆を立て、筆先をしっかり使い、キリッと仕上げられるように鍛錬してください。創作は、おそろおそろ書いたものが多く残念でした。何を表現したいのかを決めて、思いを込めて体でぶつかるような、気迫のある作品を期待します。

## 4段 神戸 雅子

漢字の課題は楷書を選択された方が圧倒的に多かったです。しかし、顔勤礼碑の特徴を捉えた筆遣いが出来ていないものも多く、残念に思いました。動画や毎月の優秀作品を確認して練習されるといいでしょう。行書も、温泉銘の特徴が捉えられていない作品が目立ちました。墨量の少なさも気になり、線の太細の変化の工夫も必要です。

令和5年度毛筆昇段試験結果

段位	受験者数	合格者数
師範	66	12
準師範		16
6段	66	26
5段	57	27
4段	68	39
3段	53	37
2段	86	68
初段	168	146
計	564	371

## 5段 金澤 雅愛

5段受験は、漢字部門は二課題を選択ですが、この二課題の特長をしっかり捉えて書けている方は、他部門も合格ラインに達している方が多かったです。仮名は日頃半紙で提出するだけで、半切作品に取り組んでおられない為か、全般において苦戦されているように見受けました。行の流れや抑揚の変化を半切で学ぶ学習もしてください。実用書は文字の線が細く、自信のない線で書いていたり、文字の大きさが不揃いな感じがありました。賞状を書くには、小筆のバネを使う練習が大切です。創作作品は、大きく書くだけでなく、多様な線、紙面の余白の研究もさらに深めて欲しいと思います。5段受験者は、全部門において平均的に書けるよう、日頃の研鑽を積んでください。

## 6段 押谷 呉壁

全般に、大きく堂々と書かれた作品が多く、試験への意気込みを感じました。漢字部作品は、紙面からはみ出るくらい気合の入ったものが多かったと思います。しかし得意な書体とそうでない書体の差が歴然とした受験者が見られました。漢字部ⅠⅡⅢに万遍なく取り組むことが大事です。また、紙質がふさわしくないものも見られ、筆が負けてしまったり墨量が不足して見えたのが残念でした。かな部は半切に書くことにあまり慣れておられないのか、全般に低評価でした。墨が濃過ぎ、また墨量過多でべったりとした作品が多かったように思います。創作部は、大半が一字書で力みなぎる佳作が多くみられました。潤渇が効いて、メリハリのあるものを高く評価しました。残念ながら多字数作品とし

て取り組まれた作品がひじょうに少なく、これは書朋本誌のあり方も考えさせる現象と反省しています。実用書は、全体のまとめ方(構成)はさすが高段位と感心しました。しかし、調子が出過ぎて右上がりがかかなり強くなったり、ご自身の名前がたいへんお粗末になっていたりして評価を下げた作品も散見されました。6段受験ともなると、一字一字の臨書をする力はかなり備わってきています。しかし、行が通っていないかったり、下部が詰まり過ぎたり、といった、全体的に紙面を見る目が備わっていないと感じることが多々ありました。行書の中心が通っていない、創作では余白の観点がない、など。単に文字を置くのではなく、紙面トータルで眺めてほしいと思います。

師範 神田 浩山

実地試験が課される師範試験に臨むためには、やはり日頃から「自分で考えて書く」という姿勢が必要だと実感いたしました。新しい『書朋』が届いて「どこをどう書くのかな?」と考えられていますか?先生からお手本をもらってまねるだけでは師範合格は遠い道のりです。毎月の課題が師範試験の「模擬試験」だと思って取り組んでください。毎月全ての課題に取り組むこと、苦手な分野を克服することも大切です。苦手だからといって月例で取り組まなければ苦手のままです。秋にある実技講座に積極的に参加しましょう。

師範に合格された皆様、おめでとございます。でも、ここから再出発です。さらに力をつけるためにも教室を開き指導してください。公募展にも出品しましょう!書の世界をどんどん広げて行ってください。師範優秀者表彰もぜひ目指してください!まだまだやること、できることは一杯ありますよ!

師範合格者優秀作品



▶奥村 和子



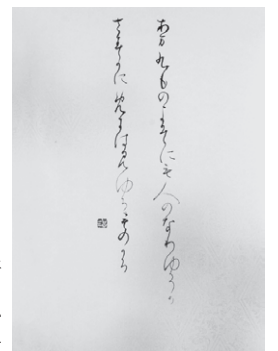
▶阿部 千恵



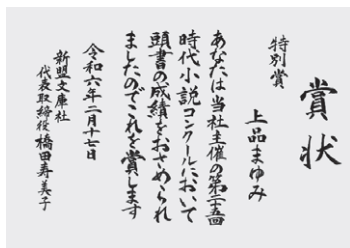
▶鈴川 愛子



▶小村 則子



▶川崎 治子



▶上品まゆみ



▶塚田 千絵



▶上品まゆみ